

八基連だより

令和7年7月号

第405号



発行日 令和7年7月1日(火)

発行所 八王子囲碁連盟

住 所 八王子市美山町 1287-9

電 話 042-651-9764

発行者 藤森 力

編集者 巻淵 正治



<https://hachigoren.com>

八王子囲碁連盟

検索

しらさぎ (谷地川)

巻頭言

八王子囲碁連盟の目的

八基連は市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康が維持できるような機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めることを目的とする。

散歩で新たな発見！

元八王子囲碁同好会 森田 隆士

元八王子囲碁同好会の例会が行われている市民センターの近くに北浅川が流れています。最近河川敷の整備が進む中、まだ自然が多く残り、桜や藤の花やシラサギ、カモ、カワセミ等の鳥も見ることができます。北浅川には、“浅川ゆったりロード”というサイクリングロードがあり、私は、健康と気分転換を兼ね松枝河川敷公園から陸北大橋まで散歩します。

散歩していると新たなことに気づきます。皆さんも知っていると思いますが、陸北大橋の少し手前に手作り橋があります。こんな橋にも歴史があることを最近知りました。

この橋は、通称“流れ橋”と云われ、鉄パイプや鉄板等で作られており、欄干もなく、幅も人がすれ違うのがやっとです。台風やゲリラ豪雨で流されてしまうので、その様

な名前が付いたと思います。

しかし、昭和35年頃には、1トン車が通れるほどの橋が架かっていた時もあったようです。この手作り橋のある道路は、佐野川往還(旧陣馬街道)と呼ばれ、戦国時代より八王子追分～山梨方面への甲州街道の裏街道として多くの商人や旅人が利用していました。



この橋は、1955年4月までは東京府南多摩郡恩方村の資産目録に登録されていましたが、八王子市に編入された時の事務処理で八王子市に引き継がれませんでした。また、八王子市史によると江戸時代の後期、寺方村大幡で大幡祇という和紙の生産が行われていたそうです。これが、現在も大幡や紙谷という地区名称として残っています。

さらに、この橋を渡ると宝生寺があります。皆さんがよく知っている“夕焼け小焼け：作詞中村雨紅”の歌にある“やまのお寺の鐘がなる”のお寺の1つになっているようです。

散歩を通して気分転換を図るとともに新たな発見をしてみませんか。

そして、いつまでも囲碁が出来るよう、“なが～い息(長生き)”をしましょう！

※出典：八王子流れ橋（北浅川流れ橋） <https://nagarebasi.web.fc2.com>

お知らせ

★第9回級位認定囲碁大会

- ◆日時 令和7年8月17日(日) 9時20分受付
- ◆場所 東浅川保健福祉センター4F
- ◆主催 日本棋院八王子囲碁連盟支部
- ◆競技方法 クラス別4回戦
- ◆特典 成績優秀者には賞品を進呈する。
- ◆参加費 1,000円 (昼食あり)
- ◆申込先 三島敏明 (toshi15mishima@kta.biglobe.ne.jp)
(各地区囲碁同好会会長を通じて申し込みをお願いします)
- ◆締め切り 8月3日(日)

★第33回活きいき大会の結果

【南大沢大会】令和7年6月8日（日）

N◆会場 柚木中央市民センター

◆参加者数

浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	長房	南大沢	一般	計
5	18	5	9	3	4	4	10	3	61

◆Aクラス（八段～五段）（18名）

優勝：小川 浄二（南大沢／八段）

準優勝：小高 茂夫（石川／五段）

3位：矢作 忠孝（大和田／五段A）

◆Bクラス（四段～初段）（24名）

優勝：浮邊 廣行（南大沢／四段A→五段）

準優勝：高橋 靖夫（恩方／四段）

3位：丸居 和也（浅川／四段）

◆Cクラス（初段～級位者）（19名）

優勝：木澤 隆雄（大和田／初段→二段）

準優勝：佐伯 芳雄（一般／1級）

3位：吉原 貴己（恩方／4級）



大会あいさつ



熱戦の模様

★第7回多摩地区28市町対抗囲碁団体戦

八王子市のチームは、八碁連が会員から9名選抜して参加します

- ◆開催日 令和7年8月24日
- ◆主催 多摩地区28市町対抗囲碁団体戦実行委員会
- ◆会場 小平市福祉会館

【編集後記】

浅川囲碁同好会の取り組みを覗いてみました。場所は東浅川保健福祉センターです。石川からバスで八王子駅経由 JR で高尾駅。そこから徒歩15分。真つ先に、子ども囲碁教室（土曜日午前中）に向かいました。何と主催が保健福祉センターの館長であることを知り、驚きです。八碁連のメンバーが講師を務め、6名の小中学生が参加しており、児童たちの真剣な眼差しがありました。

午後は、研修部主催の対局中心の研修会（参加者16名）に私も参加。楽しく碁を打ってました。別室での初心者講座（6名）を覗くと、中心者は、恩方囲碁同好会の会長さんです。他地区の囲碁同好会との交流があり、このような多岐にわたる取り組みができていることに感動しました。

6月は、南大沢活き活き囲碁大会が行われ、60名を超える参加者がありました。AクラスとBクラスの優勝者は南大沢です。大会では優勝された高段者の方が指導碁をされているのをよく見かけます。南大沢では日常的に棋力の向上を目指しているのかと納得。竹中会長にお聞きしましたが、定例会では、いつも20名弱の参加があり、励んでいるとのことでした。

最後に、藤森会長の大会での挨拶を紹介します。四月は、会員の拡大、五月は、研修会の充実を訴えましたが、六月は、日本棋院の支部について触れられました、級位認定試験の開催、プロ棋士による指導碁の実施。また日本棋院の月刊誌「碁ワールド」は、会員であれば割引があるとのことでした。